

---

*Innovation & Rebuild*

**株式会社メガチップス**  
**2011年3月期 通期決算説明**

<http://www.megachips.co.jp/>

# 目 次

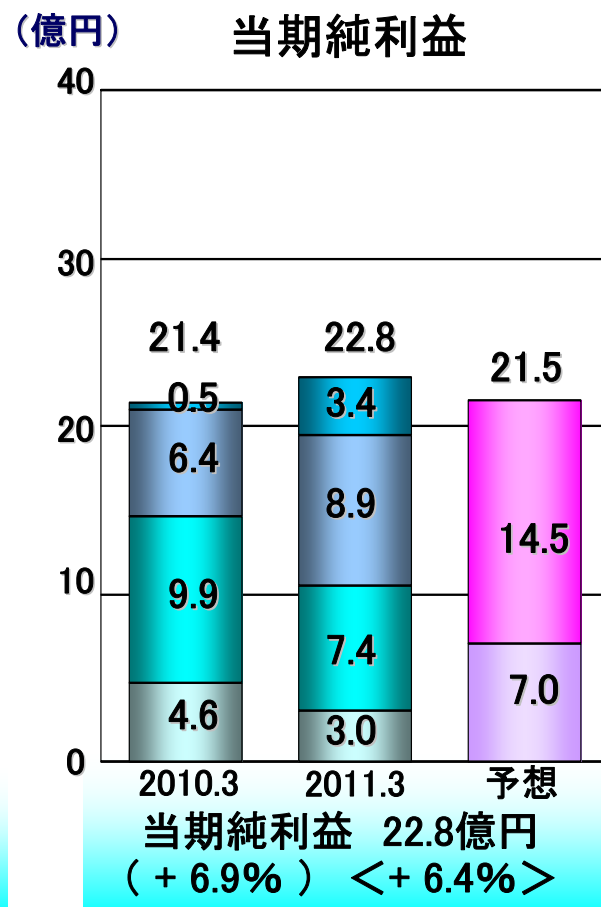
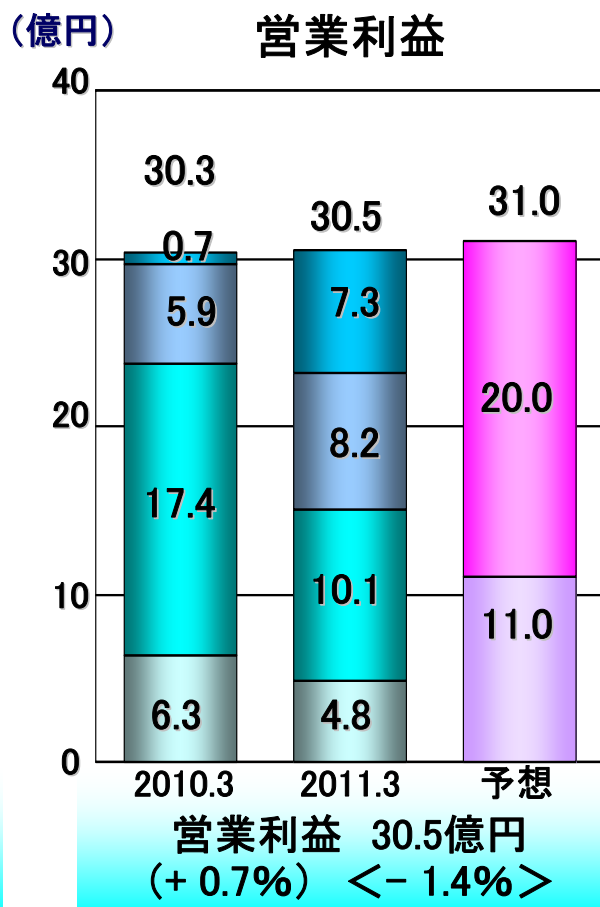
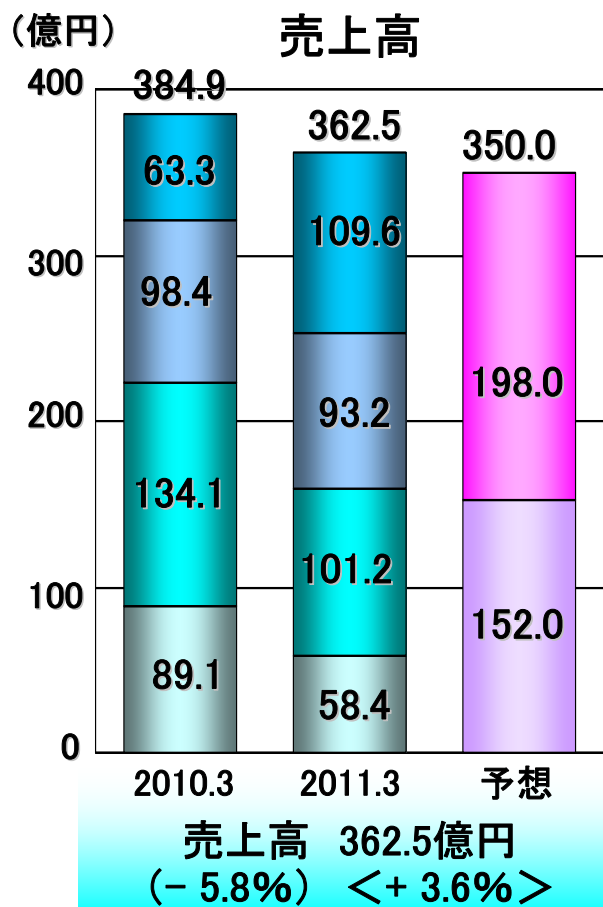
---

1. 2011年3月期 通期業績報告	.....	3
2. 2012年3月期・中期経営方針	.....	10
3. 2012年3月期・中期業績予想	.....	15
4. まとめ	.....	19

# 2011年3月期 通期業績報告

---

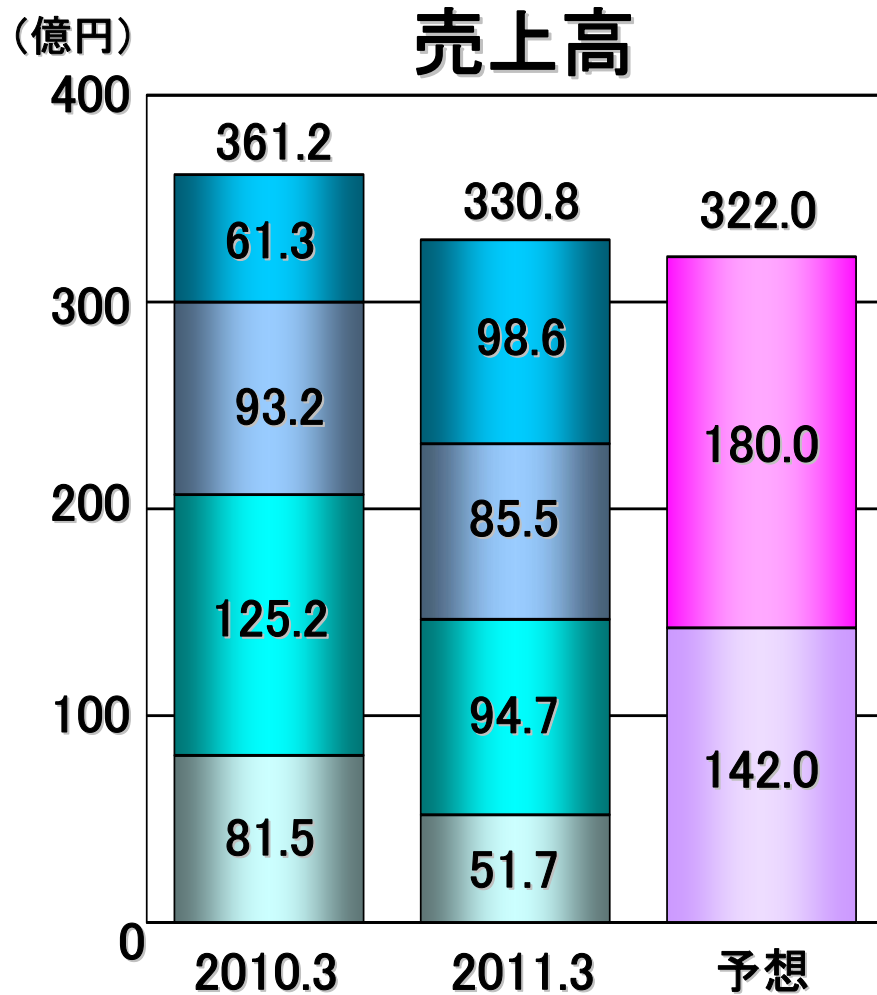
# 2011年3月期 通期業績(連結)



※( )は対前期増減率(% )、< >は対業績予想(% )。※予想数値は、2010年5月11日公表数値です。

★前年度(2010年3月期)の四半期純利益には、研究開発費にかかる税額控除対象の適用範囲見直しによる法人税の戻し入れが1億1千万円ありました。

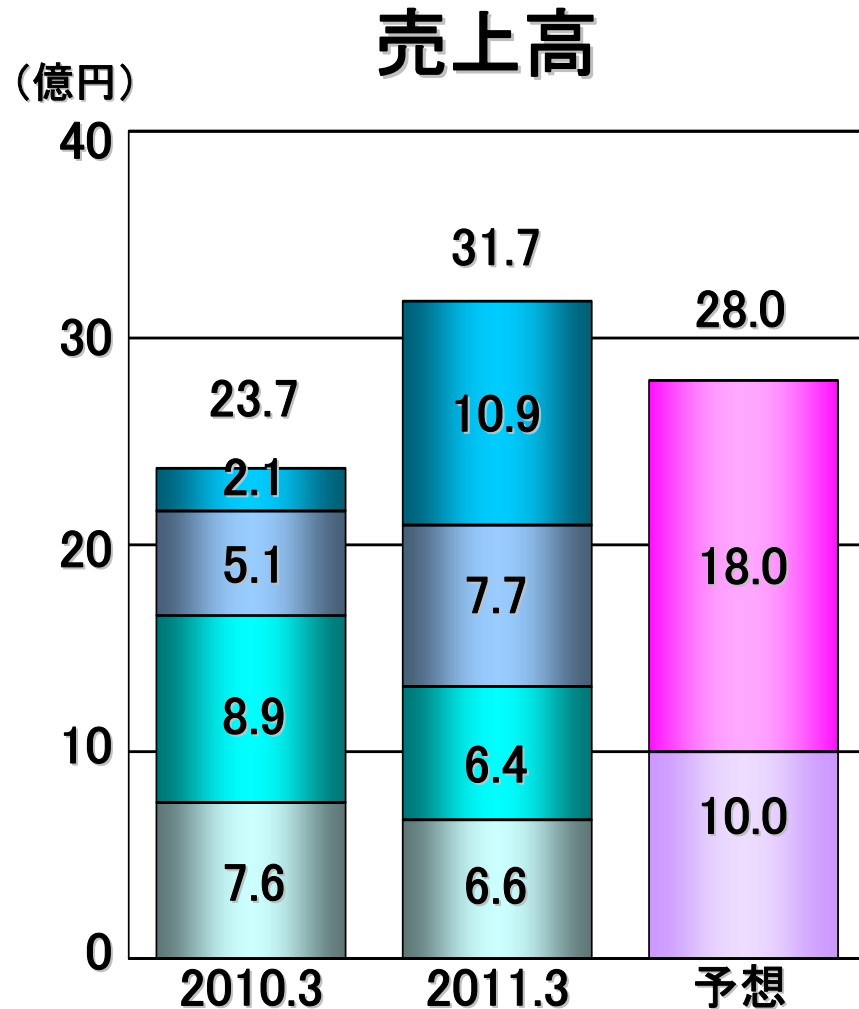
# LSI事業の売上高



**売上高** 330.8億円  
**対前期増減率** -8.4%  
**対業績予想** 2.7%

- 主要製品である携帯ゲーム機向けソフトウェア格納用LSIの需要が、減少したことにより、売上高は前年同期比で減少した。
- 業績予想に対しては、若干上回って着地した。

# システム事業の売上高



売上高 31.7億円  
対前期増減率 +34.1%  
対業績予想 +13.5%

- 顧客専用映像監視機器の需要が堅調に推移し、売上高は前年同期比で増加した。
- 業績予想に対しても、上回って着地した。

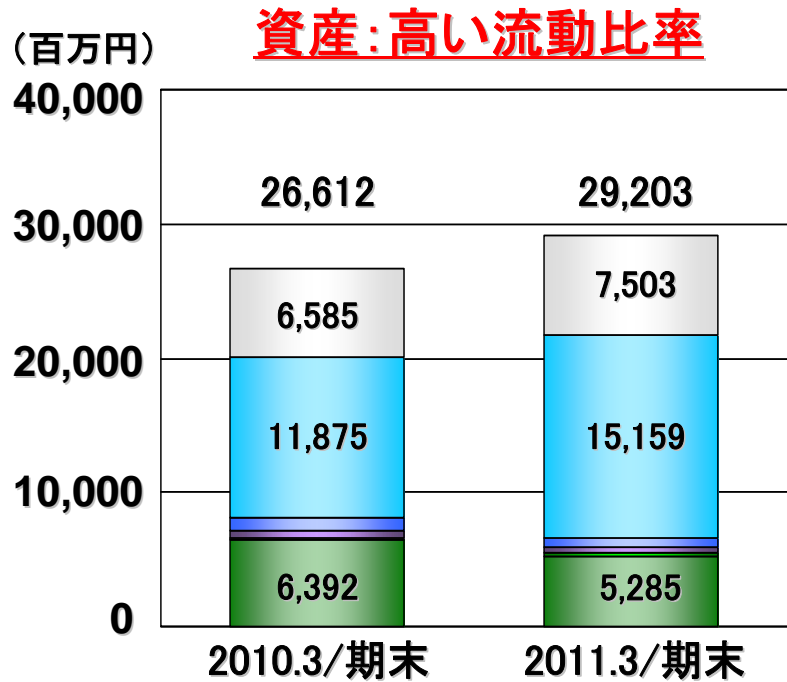
※予想数値は、2010年5月11日公表数値です。

# 2011年3月期\_通期連結業績(P/L)サマリー

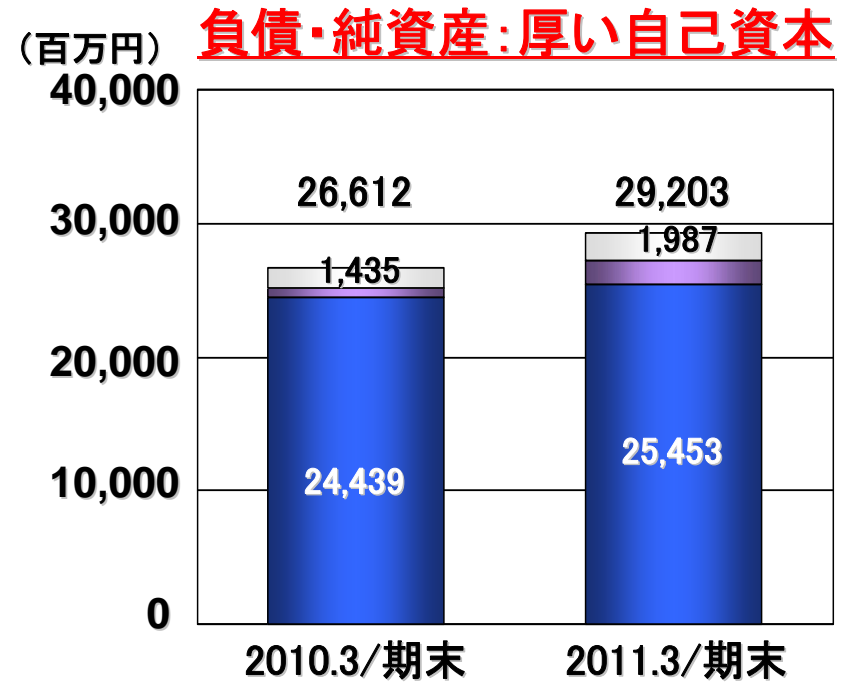
(単位:百万円)		2011.3期 実績	2010.3期 実績	2011.3期 通期予想	対前年 同期比	対 通期予想
LSI事業	売上高	33,080	36,124	32,200	- 8.4%	+ 2.7%
	営業利益	3,728	4,212	3,600	- 11.5%	+ 3.6%
システム 事業	売上高	3,178	2,371	2,800	+ 34.1%	+ 13.5%
	営業利益	- 574	- 1,141	- 500	—	—
全社共通費用		99	35	0	—	—
連結	売上高	36,259	38,495	35,000	- 5.8%	+ 3.6%
	営業利益	3,055	3,034	3,100	+ 0.7%	- 1.4%
	経常利益	3,320	3,101	3,100	+ 7.1%	+ 7.1%
	当期純利益	2,288	2,140	2,150	+ 6.9%	+ 6.4%
	1株利益(円)	94.64	88.19	88.51	+ 7.3%	+ 6.9%

★前年度(2010年3月期)の当期純利益には、研究開発費にかかる税額控除対象の適用範囲見直しによる法人税の戻し入れが1億1千万円ありました。

# 2011年3月期\_通期財政状態

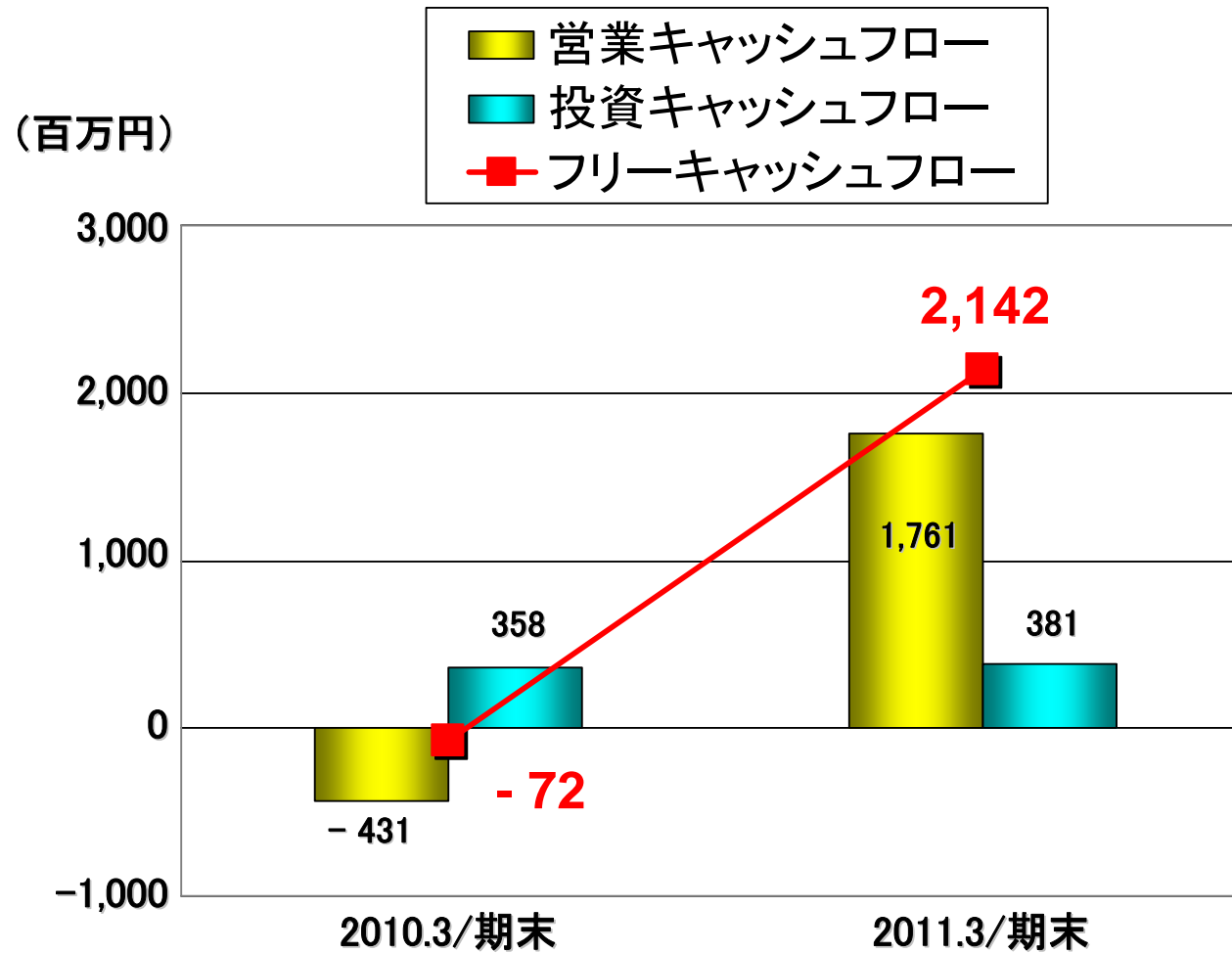


	2010.3/期末	2011.3/期末
現金及び預金	6,585	7,503
受取手形及び売掛金	11,875	15,159
たな卸資産	946	637
その他の流動資産	596	444
無形、有形固定資産	215	172
投資その他の資産	6,392	5,285



	2010.3/期末	2011.3/期末
支払手形及び買掛金	1,435	1,987
有利子負債	0	0
その他流動負債	698	1,717
その他固定負債	38	44
純資産	24,439	25,453

# 2011年3月期\_キャッシュフロー



# 2012年3月期・中期経営方針

---

# 2012年3月期中期成長戦略

日本でNo.1のLSI関連ファブレス・ベンチャー企業として！  
ワールドワイドにサービスソリューションを提供する企業  
として認知を得る。

1. 「顧客密着型ビジネス」で強固な事業基盤を築くとともに、「自社製品ビジネス」にも取り組み、適正な事業ポートフォリオを実現する。
2. 中長期的な視点に立った基礎技術を開発する。
3. 高収益化への体質改善により、事業効率を向上させる。

# 中期成長戦略\_1

1)「顧客密着型ビジネス」で強固な事業基盤を築くとともに、「自社製品ビジネス」にも取り組み、適正な事業ポートフォリオを実現する。

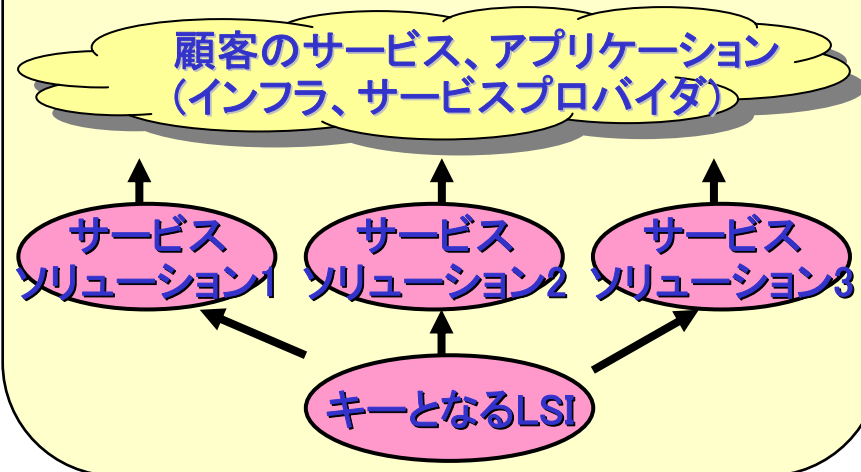
## <顧客密着型ビジネス>

顧客とともに長期的に成長・発展できるビジネスを構築する。

- ①取引先とビジネスリスクの最適化を進める。
- ②長期的にビジネスを維持するコアコンピタンスを磨く。
- ③システムLSIからシステム製品まで最適なソリューションの提供を拡大。
  - ・LSI
  - ・ボード、モジュール製品
  - ・システム製品
  - ・IP

## <自社製品ビジネス>

競争力のあるLSI、知財をキーコンポーネントとし、顧客が新たなサービスを創造できる幅広いソリューションを提供する。



## 2) 中長期的な視点に立った基礎技術を開発する。

①新たなビジネスを獲得する為、強力なコアコンピタンスの実現を目指し、基礎技術の開発に取り組む。

- 1: 新たな市場を創造する分野
- 2: ビジネスのイニシアティブを維持することを目的とする。
- 3: 単発のハードでは無く、Totalなソリューションに向けたコアコンピタンスを用意する。

②良好なビジネスを長期的に維持するためコアコンピタンスを磨く。

- 1: 特徴あるビジネスモデル
- 2: 技術特許
- 3: ハード、ソフトのノウハウ

### 3) 高収益化への体質改善により、事業効率を向上させる。

- (1) グローバルなアライアンス活用による  
開発の効率化・事業リスクの軽減
- (2) 開発段階からの総原価コントロール、原価低減
- (3) 生産工期の短縮
- (4) 適正な在庫レベルの管理
- (5) 人員の配置・規模の最適化と業務効率の向上

# 2012年3月期・中期業績予想

---

# 2012年3月期 業績予想

(単位:百万円)		2012.3 上期 予想	2012.3 通期 予想	2011.3 上期 実績	2011.3 通期 実績	対前年 上期 増減率	対前年 通期 増減率
連結	売上高	16,500	39,500	15,970	36,259	+ 3.3%	+ 8.9%
	営業利益	1,300	3,200	1,503	3,055	- 13.5%	+ 4.7%
	経常利益	1,300	3,300	1,466	3,320	- 11.4%	- 0.6%
	当期純利益	900	2,200	1,046	2,288	- 16.4%	- 3.9%
	1株利益(円)	37.49	91.63	43.08	94.64	- 13.0%	- 3.2%

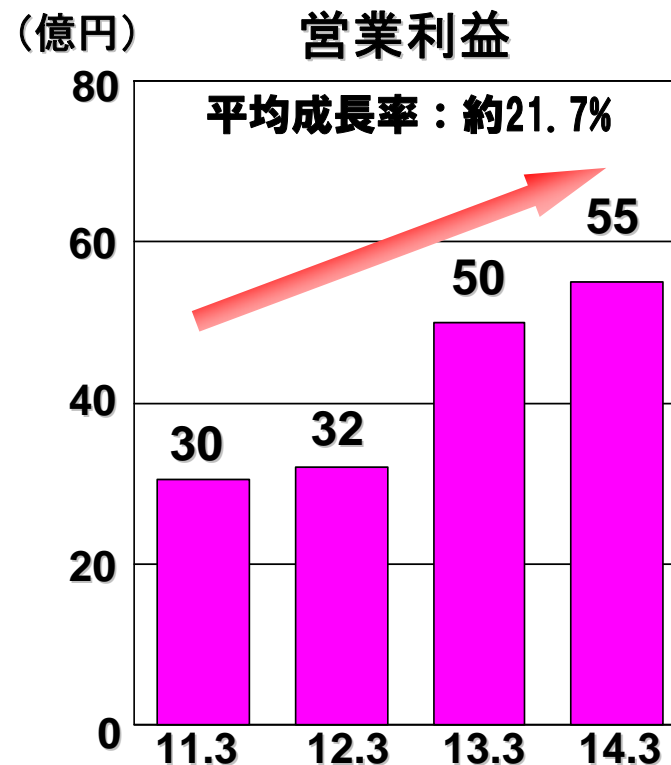
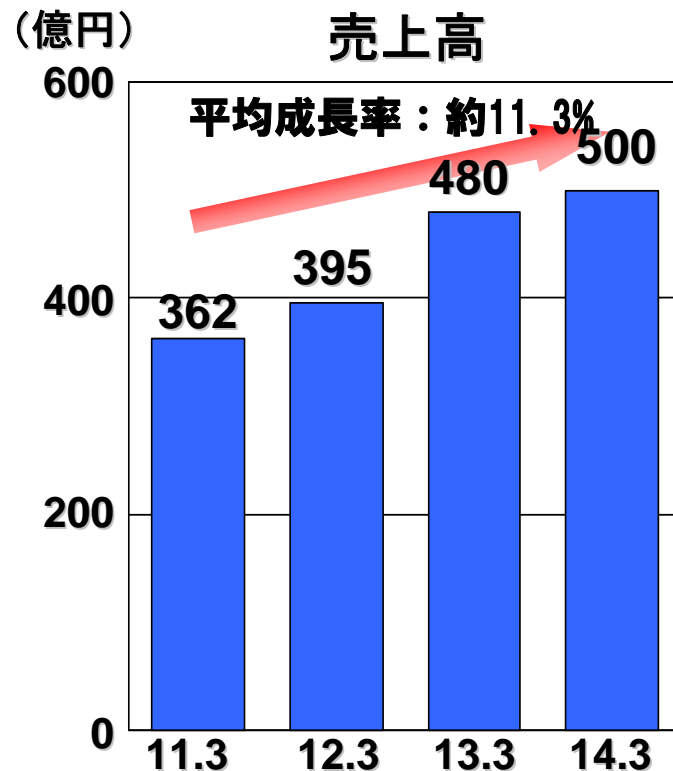
★2012年3月期には、全社費用として研究開発費:5億円(上半期2億円)を予定しています。

★前年度(2011年3月期)の当期純利益は、営業外収益として受取配当金、また特別利益として有価証券売却益により、利益が押し上げられました。

# 中期業績目標

## 中期業績目標(2014年3月期の目指す姿)

●連結営業営業利益平均成長率 約21.7%

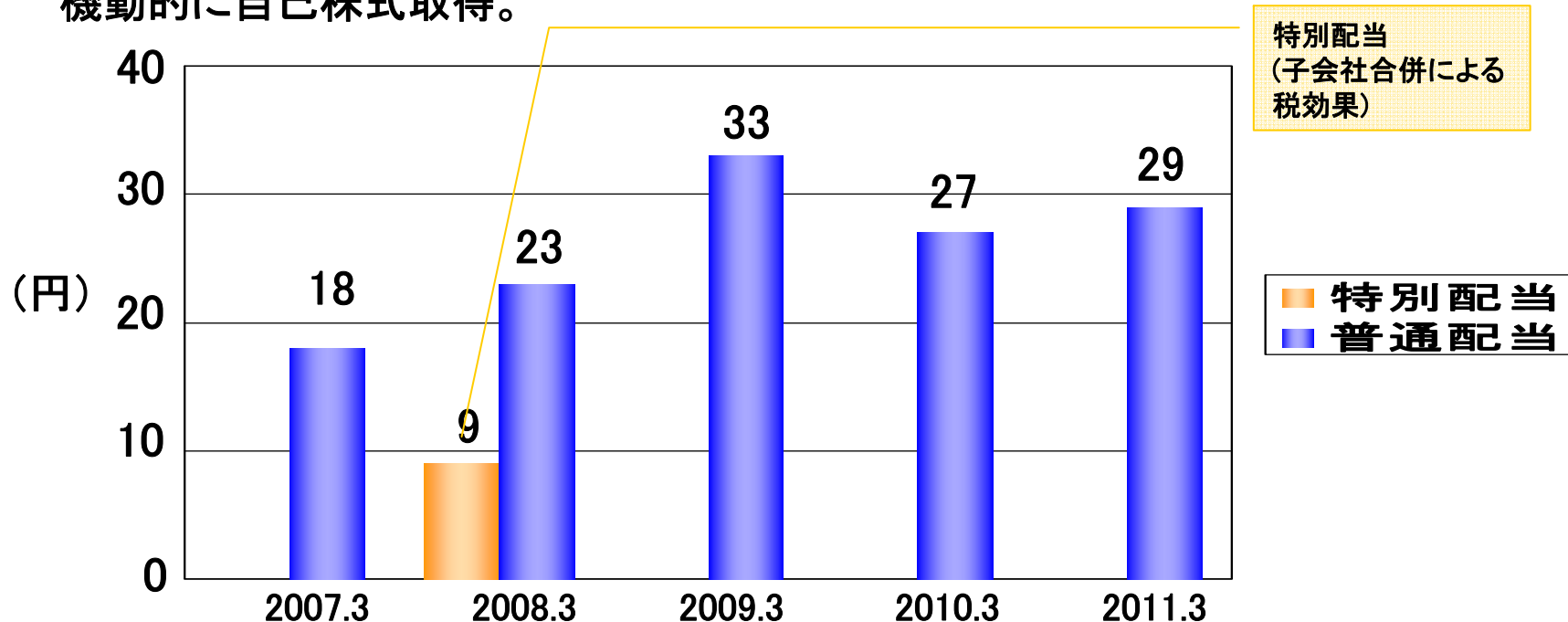


★中長期の更なる成長のため、2012年3月期から各年度ごとに  
全社費用として研究開発費5億円／年度を予定しています。

# 経営体質(利益配分)

## 【配当方針】

- ① 中長期的な成長に向けた投資を行うため、また経営環境の変化にも耐えうる健全な財務体質の維持に必要な内部留保を確保。
- ② 剰余金の配当は、配当性向30%程度、または連結純資産配当率(DOE) 2%程度のいずれか高い方。
- ③ 資本効率向上のため、市場の状況、株価動向、財務状況等を勘案し、機動的に自己株式取得。



# まとめ (Key Investment Highlights)

- 「顧客密着型ビジネス」で強固な事業基盤を築くとともに、「自社製品ビジネス」にも取り組み、適正な事業ポートフォリオを実現する。

従来の「顧客密着型ビジネス」は最適なソリューションの提供を拡大し、より強固な事業基盤を築く。また、顧客が新たなサービスを創造する為のソリューションを提供する「自社製品ビジネス」に新たに取り組み、バランスのとれた事業ポートフォリオを実現する。

- 中長期的な視点に立った基礎技術を開発する。

既存のビジネス以外に、将来的に健全なビジネスポートフォリオを実現する新たなビジネスを獲得する為、強力なコアコンピタンスの実現を目指す。

- 高収益化への体質改善により、事業効率を向上させる。

グローバルなアライアンス活用、開発段階からの原価コントロール、生産工期の短縮および適正な在庫レベルの管理など、事業効率を上げると共に、無駄を省き地球環境の維持にも貢献する。

# IRポリシー

## ≫ 基本姿勢

当社は、「公平性」「適時性」「正確性」「継続性」に配慮して、経営戦略や財務状態等の会社情報を発信し、経営の「透明性」を高めるとともに、株主・投資家・証券アナリストの皆さまからの当社に対する信頼と適切な評価を得るために、経営者自ら積極的なIR活動に取り組みます。

## ≫ 情報開示の基準

当社は、金融商品取引法、会社法等の諸法令(以下、「法令」)、また当社の株式が上場されている東京証券取引所の定める「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示に関する規則」(以下、「適時開示規則」)を遵守してディスクロージャーを行います。また、法令ならびに適時開示規則に規定される開示基準に該当しない場合でも、株主・投資家・証券アナリストの皆さまの投資判断に影響を与えられとされる情報や、当社への理解を深めていただく上で有用であると思われる情報は、積極的に開示します。

## ≫ 情報開示の方法

当社は、適時開示規則に定める開示基準に該当する情報、株主・投資家・証券アナリストの皆さまの投資判断に影響を与えられとされる情報は、適時開示規則に従い、東京証券取引所が運用する適時開示情報伝達システム Timely Disclosure network (TDnet) を通じて開示するとともに、速やかに当社のインターネット上に開設するホームページ(以下、「ホームページ」)に掲示します。  
また、これら以外の情報についても、当社を理解していただく上で有用であると思われる情報は、IR情報誌等の発行や、ニュースリリースの配信やホームページへの掲載を通じて情報発信します。

## ≫ 将来の見通しについて

当社が開示する情報の中で、業績予想や将来の予測等に関する記述は、その情報が開示される時点で経営者が入手した情報に基づき判断した予想であり、不確実性や潜在的なリスク(以下、「リスク」)が含まれる場合があります。しかし、結果としての業績等は、変化するさまざまな要因によって、予想とは異なることがありますことをご承知おきください。これらリスクは「事業等のリスク」として開示に努めますのでご参照ください。

## ≫ 投資の判断

当社の開示する情報は、当社に対する理解を深めていただくことを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、ご自身の判断において行なわれますようお願いいたします。

## ≫ 第三者が発行する当社情報への対応

証券アナリストや報道機関、インターネット上のさまざまな情報サイト等の当社以外の第三者が発信する、当社の情報・業績予想等各種情報については、当社はコメントやこれらを支持する立場にはありません。ただし、これらの内容に明らかな誤りが含まれており、当社への信頼と適切な評価が得られないと判断する場合には、その誤りを訂正し、正確な情報を伝えるための対応を行います。

## ≫ IR沈黙期間

当社は、株価に影響を与える決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、各四半期の、決算日含め5営業日前から決算発表日までを沈黙期間と定めます。この期間中は、決算に関連するお問い合わせへのコメントを控えさせていただきますので、ご理解いただきますようお願いいたします。ただし、法令や適時開示規則に該当する情報については、沈黙期間中であってもディスクロージャーを行った後、お問い合わせに対応いたします。

## ≫ 関連

適時開示に係る宣誓書(東京証券取引所ホームページに掲載)  
適時開示体制概要書(東京証券取引所ホームページに掲載)  
情報開示標準(当社社内規則)

## 本資料に関するお問い合わせ先

株式会社メガチップス  
管理統括部 経営企画課 広報グループ

[ir-team@megachips.co.jp](mailto:ir-team@megachips.co.jp)

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4丁目1-6 アクロス新大阪  
TEL: 06-6399-2884(代) FAX: 06-6399-2886